

親子で『竹トンボ遊び』と 新加納『歴史学級』へどうぞ！

▶ご参加の方は、当日ふれあいセンターまでおこしください。現地で受付します。

内
容

- ①新加納のむかし
(お殿様、神社、お寺など)
- ②竹トンボづくりと飛ばし大会

参加者募集！



- ・日 時 7月25日(水)
(午後3時～4時15分頃)
- ・場 所 ふれあいセンター
日吉神社
- ・対 象 新加納町、浜見町、日吉町に
お住まいの方どなたもOK！
- ・費 用 無料
- ・持 物 不要(こちらで用意します。)
- ・担 当 ①横山
②岩間、村瀬、川島
まちづくり会ほか



日吉神社



少林寺



善休寺



法光寺



瑞眼寺

中山道間の宿 新加納
まちづくり会かわら版

夏季号

平成24年
7月15日発行

新加納まちづくり会
会長 小島秀俊

中山道 新加納立場

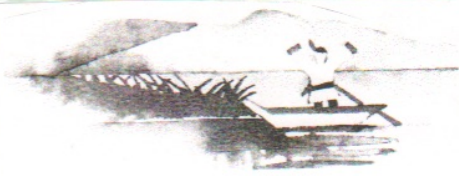


昭和十四年善納の狛犬

小休本陣 梅村屋



せんき妙薬の看板



浜見塚

むかしむかしのこと。

浜見塚(新加納)の下まで海の水がきとったころ、赤坂(大垣)から犬山まで舟にのっていったもんやそうな。ちょうど七里ぐらいあつたらしく「七里の渡」とよばれとった。

ほら、今夜も舟をこぐ音が聞こえるやろ。浜見塚の灯明をめじるしに、すきな男に、あいにくる娘の舟をこぐ音や。

「あの人はこんやもきて、まっとなつてくれるやろか。・・・

はよ、あいたいなあ」。

このなかのよい若い男と娘はな、はじめは犬山に住んどつたが、家のつごうで男だけ赤坂の方へ行つてしまった。

「月に一度、月のない夜やつたらだれにもわからへん。ちょうどまん中へんの浜見塚の灯明をめじるしにあうことにしよう」。ふたりは、かたいやくそくをして別れたということや。

それからはな、月に一度灯明のあかりをめじるしに、男と娘は舟をこいだそうや。

浜見塚の近くの人、なかのええふたりを、こそつとながめていたもんや。

けどなあ、いつの世にもよくないやつがいるもんで、ふたりのなかがあんまりええのをやつかんで「灯明の火をいっぺんけしたろか。めじるしがなけなふたりはあえやせん。おもしろいでやつたるか」。

ある月のない夜、このよくない心をもつた男は、灯明の火をこそつとけした。

そんなことはちつともしらんふたりは、いつものように灯明の灯をたよりに舟をこいでやつてきたんや。

ところが、この夜にかぎつて、どんだけ舟をこいでも灯明がみえやせん。波のカチャポンチャポンと舟べらをたたき音ばかり。

「ひょつとして、もうおらがきらいになつてあいとうないで火をけしたかもしれん」。

娘は、もう男の心がかわつてしまったものと早がてんをして「灯明めあてにきたものを、なぜこよいはきえている」。こんなうらみのことばを残してな、かわいそうに男をうらんで海へとびこんでしまったにやと。

次の朝、ようよう明るくなつたとき、浜辺でつめとうなつた娘をみつけた若い男は、どんなにかなしかつたことか。

今はな、海ものうなつて広い田畑になつてしまつとる。

男をうらんで死んだ娘のことなどだれも知るものはない。

ただ浜見という地名がのこつてるだけじゃ。

～参考「かかみがはらのむかし話」～



瑞眼寺 浜見塚古墳群一号墳

各務原市教育委員会